

設計演習III

1. 面構造によるメモリアル空間

担当: 李暎一・竹口健太郎・遠藤秀平

1、課題主旨

メモリアル空間を(面状の構造により)計画する(面状の構造とは柱や梁による線材の架構ではなく、壁面/床面/屋根面の連続により構造躯体として成立するものを使う)。構造計画に関しては厳密な構造計算による根拠は求めないが、モデル検討及び構造力学的見地に立った基本的な考察を必要条件とする。この構造体を構成する材料は石・コンクリート・鉄・ガラス等一般的に流通するものとし、社会的な合意を得られるコストを前提とすること。また、平面計画や建築造形において形態的メタファーによる合意を目的とせず、計画する環境(場・空間)に対して身体的な関心と理解を探求すること。個人を象徴する空間を熟慮し、そこに必要な空間と場の特殊性を構造・構成・構築概念を手がかりに物理的提案として創出すること。

2、概要

各自が社会的実績を勘案し顕彰に値すると判断する人物を選択、その個人のためのメモリアル空間を設計する。敷地の選定においては、選択の必然性を前提とすること。その他必要空間を設定し理想的な外部環境・ランズケープを含めてのメモリアル空間を提案すること。延床面積は200平米程度とする。

3、敷地

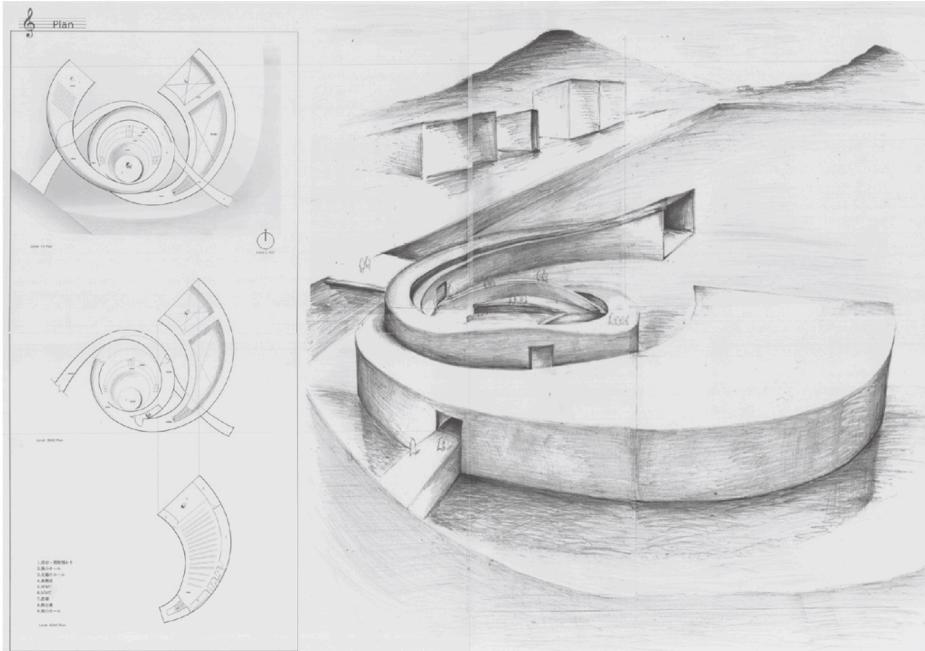
各自設定。設定した人物にふさわしい敷地を選ぶこと。

4、提出物

A1図面3~5枚程度、完成モデル1:100、必要図面は各自設定し、第三者に十分な理解を得られることを目的とする。

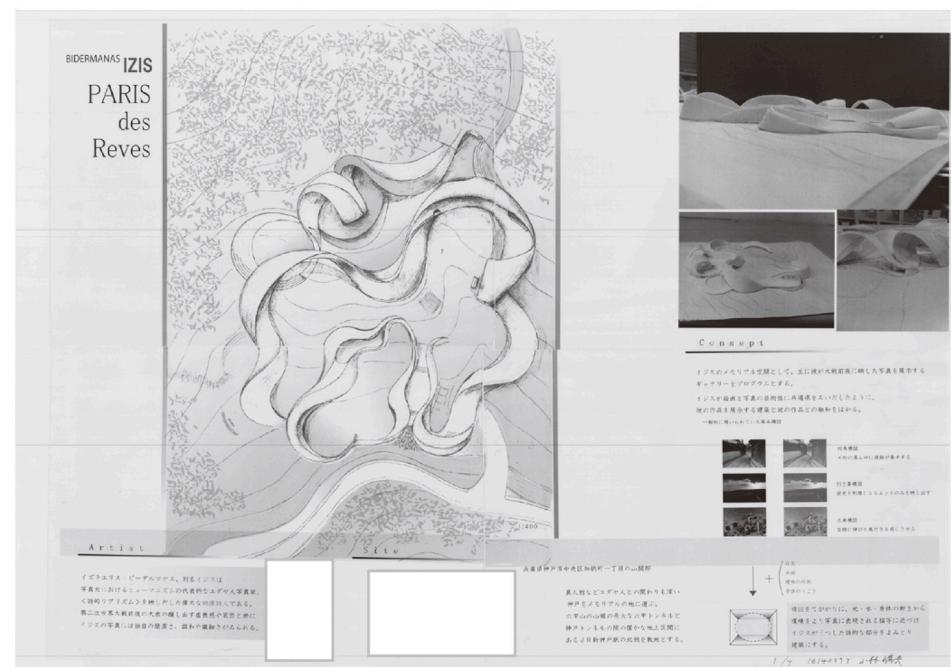
Resounding Space

橋本阿季



PARIS des Reves

小林璃央



詩的世界—田村隆一をたどる—

中川寛之

